

通年観光・広域観光推進特別委員会 事前提出レポート
滝沢一成

議題1；上越市の観光について

【発表の内容】

- 上越市の観光についての意見
- 通年観光や広域観光の推進にあたっての意見

「通年観光は本当に必要か」

「通年観光は本当に必要か」今現在の私の立ち位置はここだ。

昨年秋の選挙で中川現市長が通年観光を公約として訴え、市長就任後も「人口増に向かって、上越を通年観光のまちに」と力説している。

通年観光が実現すれば、街が賑やかになる、上越市が全国ブランドになる、何より観光客がお金を使ってくれるし、観光業の雇用も増える…結果人口が増える、だから通年観光を目指そう…ということかと思うが、いま市が力を入れるべきは、通年観光なのだろうか。

確かに観光に関わる宿泊業、飲食業、銘菓名産を扱うお店、交通機関、土産物店（今は事実上皆無）…いろんな職種が潤うのは確かであるが…。

委員会を進めるにあたり、そこはクリアしておいたほうが良い。

通年観光地はなぜ通年観光地たり得るのか

いま通年観光が成り立っているところはどこなのか。身近なところなら長野、松本、金沢あたりか。全国区では奈良、福岡、長崎、広島、仙台、札幌…。同規模のまちなら、松江、高知、高岡、会津若松、延岡…。面的観光地では、北海道、信州、佐渡、出雲、阿蘇、沖縄…。点としては、伊勢、飛騨高山、軽井沢、横浜、盛岡、遠野…。そして頭抜けた存在の京都、東京。これらと我々のまち上越は何が違うのか考える必要がある。

これらの通年観光が成り立っているように見えるまちに共通するのは何か分析することも必要だ。

①もともと観光地としての魅力があって、②そこそこ観光客が来続けていて、③「もっと磨いてみようか」という努力が長年あって、④ブランド化した今がある、そこでないかと思う。

上越は①は不明、②はほぼ無し、③磨き上げに努めるグループは複数存在するがどこまで効果を上げているか、④ブランド力は無きに等しい。…と私は評価する。

やるべきことは100年がかりのコンテンツ磨き上げ

やるべきはコンテンツの磨き上げである。

磨き上げの時間は、新しいところでも50年から100年、古いところでは奈良京都のように1000年超えている。それだけ長い時間がかかってようやく培って来た「行きたくなる何か」があるからいま通年観光の地として成り立っている。

市長は、高田寺町の通年観光地化にむけ20年30年後の姿を思い描くと言うが、その程度かけても通年観光が成立するとは思えない。雁木町家街、春日山、直江津、どれもそうである。

通年観光を目指すなら、腰を据えて短くて50年計画、できれば100年計画を立てるべきだと考える。そうなるとももちろんその頃に私はいない、多分市長も、大半の議員もいない、それでもやりましょうというのが、本当の「通年観光プロジェクト」だと思う。

「通年観光は目指すものではなく、成るもの・熟すもの」である。したがって通年観光に向かうのであれば、にわか作りの突貫工事にかかるのではなく（突貫工事とは具体的になにかはわからないが）、今はまず（繰り返すが）一つひとつの「良いもの」の磨き上げをやることだと考える。

タイムテーブルは100年。ひ孫の時代に、通年観光都市上越が成立している、かもしれない。くらいに鷹揚にかまえるのがよい。

□上越市の観光施策の課題

一つひとつのコンテンツの磨き上げができていない。

街並み、歴史的建造物・仏像など歴史遺産、自然・文化遺産、一流なものも確

かにあるのに、すべて「絶対見たい、触りたい」と思うには何かが足りない二流に見えている。

そもそも市民には、本当に観光地になりたい願望はあるのか、覚悟はあるのか。

□今後の展望など

「イベント観光からコンテンツ観光へ」

「観光地化 100 年計画（望むなら）」

議題 2 ; 今後の委員会の進め方について

【提出資料】

□調査・研究を行うべきテーマや項目

「通年観光および広域観光の概念・定義の共有化」が第1歩です。
また、特別委員会は任期終了時、提言書をまとめる必要があり、それを確認しておく事。

「通年観光・広域観光の先進地のあり方と学ぶべき点」

「上越の通年観光・広域観光のあるべき姿とそこからのバックキャスティング」

「高田、春日山、直江津における諸団体の活動現況と今後の展望調査」
※寺町まちづくり協議会、浄興寺大門通りまちづくり協議会、高田寺町モミジの会、金谷山さくら千本の会、金谷山ほたるの会、町家三昧、瞽女ミュージアム、頸城野郷土資料室、まちなみF O C U S、一般社団法人雁木のまち再生、お馬出しプロジェクト、上越市青田川を愛する会、郷土の偉人前島密翁を顕彰する会はじめ郵便関係諸市民団体、稲田四ヶ所界隈の雁木再開発個人グループ（北折圭司、フィリップス…）、春日山城跡保存整備促進協議会（春日山、直江津の団体はよく知りません…）

□小木・直江津航路を活用した佐渡との広域観光について

- そうならばいいね、くらいで何を求められているのか不明。
- 敦賀延伸の効果、世界遺産登録の見込みを見極める必要あり。
- 平たく考えれば、佐渡が広域観光を組みたいのは、上越ではなく長野だろうと思う。そこにどう上越も加えてもらうか。

□通年観光の必要性について など

○上記長文にあり。

□上越市が進める通年観光プロジェクトについての勉強会

○特別委員会として、正式な調査として、所管課を複数回招集する。

※当該プロジェクトは息の長い進み具合になろう。こちらも 2 年でどうこうという話ではないのでは？

□管内・管外視察や意見交換会・勉強会等

○通年観光・広域観光の先進地視察。特にこのところ名を上げてきた新興の観光先進地。京都とか、飛騨高山とか、老舗に行っても仕方ない。

○上記市内団体との意見交換会

○講演&意見交換 旅ナカラボ合同会社 代表 野添幸太氏。元 JTB 本社経営企画室部長。フルサット平原 匡氏と共同研究・事業を進めてきた縁で、上越に幾度も来られ、上越の強み弱みをよくご存じである。「これからの観光コンテンツのあり方」「観光いちげんさんから常連さんへ、ついには移住・居住へ」

○講演&意見交換 トキめき鉄道代表取締役社長 鳥塚 亮氏。「鉄道博物館の展望、通年観光の実践形としてのトキ鉄の観光展開」

○82 銀行 経営企画室 「(民間×行政×金融) ×国という観光展開の可能性と限界」

○観光庁観光地域振興部観光地域振興課観光地域づくり法人支援室長 後藤章文氏。「ポストコロナの地域の観光づくり／帰ってきたインバウンド」